

令和元年度 第2回地域医療対策協議会 協議結果

日時：令和元年12月26日（木） 15：00～16：15

場所：石川県庁行政庁舎11階 1110会議室

<医師確保計画について>

- 医師確保計画の素案について、事務局より資料1～3に沿って説明があった。
- 今後各構成員で精査し、追加意見等があれば事務局で取りまとめ、パブリックコメントに向けた計画案を作成することとされた。

<臨床研修制度について>

- 臨床研修病院の募集定員の見直しについて、事務局より資料4に沿って説明があった。
- 各構成員より、次のような意見が述べられた。
 - ・国においては、これまで6都府県（東京、神奈川、愛知、京都、大阪、福岡）からその他の道県への研修医数の誘導が行われてきたが、ここ3年のトレンドが横ばいとなっていることから、計算方法の見直しを検討していると聞いている。石川県も6都府県に近い位置にいるので、影響も予想される。
 - ・当院のアンマッチ者の内定先を調べたところ、半分は県外に流れている。たすき掛けプログラムを作っても、必ずしも県内に留まらない可能性もある。
 - ・定員数に余裕があれば、フルマッチをしている病院に優先的に配分すれば県内採用の増につながる。
 - ・研修終了後に県外へ流れる医師が多いと、県内医師数に多大な影響を及ぼすため、地域への定着率は重要。定員配分において十分加味していただきたい。
- 募集定員については、本日の調整案で決定ということではなく、今後国から示される具体的な定員数も踏まえて、段階を踏んで、関係者と調整を行っていくこととされた。

<専門医制度について>

- 専門研修のシーリングの取扱について、事務局より資料5に沿って説明があった。
- 各構成員より、次のような意見が述べられた。
 - ・広域的な医師養成の観点から、富山県と福井県の必要医師養成数を一部石川県に配分できないか、両県と協議すべき。
 - ・本県で育成して富山県、福井県へ派遣しているという実態を踏まえれば、本県への配分は隣県の医師確保にも資するものであり、理解を得られるのではないかと。
 - ・必要医師数は、信頼性が不明なものも含めて様々なデータに基づいて算定されており、前提条件が変われば算定結果も大きく変わる。厚労省もそうした点を踏まえて、今後見直しを行う予定と聞いている。
- これらの意見を踏まえ、今後、県と大学病院が連携して、隣県と調整を行っていくこととされた。

<金大特別枠医師のキャリア形成プログラムについて>

- 金沢大学医学類特別枠医師のキャリア形成プログラムについて、事務局より資料6に沿って説明があった。
- 構成員より、次のような意見が述べられた。
 - ・本県の特別枠については、関係者間できめ細かく調整がされており、離脱者も少なく、うまく運営されているのではないか。
- 今後の金大特別枠医師の勤務について、事務局案に沿って調整を行っていくこととされた。